

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社 アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市区西玉池町255番		
自己評価作成日	平成27年 2月 14日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2370400992-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に“利用者様中心のケア”の実践に取り組んでおり、開放的な空間の提供のために防犯目的以外の玄関の施錠はしていない。ご家族様を含め、ご自宅で生活されているのと変わらない環境作りに取り組み、自由に出入りできる空間と支援に努めている。少しでも歩ける方には安易に車椅子をしようせず、見守り、手引きと段階を踏んで自立支援に努めている。買い物にも毎日出掛けられるようにしており、ホームで召し上げる食材選びや、個人での買い物も行けるようにしている。庭には小さな畑(家庭菜園)を作り、育て、管理し、食べるまでの楽しみをできるようにしている。共同生活ではあるものの、ADLに応じて個別支援を行っている。ご家族様とも積極的にコミュニケーションを図っており、なかなか来訪できないご家族様にも月に1度手紙を送らせて頂き、ホームでのご様子をお知らせしている。ご家族様と職員が親戚の様な関係となり、利用者様の支援を共に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根付いた取り組みの一つ「いどばた会議」が100回の節目を迎えた。関係者の骨折りを讃えたい。この会議は、毎月1回、地域のコミュニティセンターを会場としてお年寄りが集まり、「お楽しみ会」や「知って得する情報・座談会」を開いている。毎回20名を超える高齢者が集まるが、この中にはホームからの6~7名の利用者が含まれている。この会議の事務局をホームが担っており、さらに発展させて「歌声喫茶」も始まった。「歌声喫茶」は、法人が運営する高齢者施設の地域交流ルームを使用して実施されており、当日は懐かしいメロディーが流れる。ここにもホームの「のど自慢」の利用者が参加している。地道な活動ではあるが、確実に地域とホームの連携が強くなってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は掲げられ、実践に向けて取り組んではいるものの、全職員が共有できているとは言えず、また、地域密着型サービスの実践への意識は薄い。	「女性は女性らしく、男性は男性らしく、人間は人間らしく」をホーム理念に掲げ、職員全員が同じ思いをもって実践しようとしている。利用者の家族からは、「理念の実現ができて」との高い評価がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度のいどばた会や歌声喫茶を開催し、地域の方との交流を図っている。年末にはもちつきを行い、近隣の方へお餅を配ったり、もちつきに参加して頂くこともしている。また、夏祭りや秋祭りなどの地域での行事にも参加している。	地域の高齢者を対象として毎月開催されている「いどばた会議」が100回を達成した。この会議は地域のコミュニティセンターを会場としているが、近くの法人施設を使って始まった「歌声喫茶」も好評である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2にもあるが、いどばた会、歌声喫茶を通じて地域の方に認知症の理解、介護予防の勉強会や手作業、歌を歌うなどを行っている。利用者様との関わりが薄い為、もう少し関わりが持てると良い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、消防団長、いきいき支援センター職員、ご家族代表の方で情報を共有し、現場での出来事や、地域の実情について話し合われている。そこでの意見が現場レベルではあまり活かされていないものの、地域との連携には努めている。	法人の高齢者住宅の「地域交流ルーム」で開催された運営推進会議に参加した。前回来議議事録の承認、「いどばた会議」、「歌声喫茶」の報告、運営状況の報告、「目標達成計画」の年度評価等が討議された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での内容の報告や、月に1度、いきいき支援センターへお部屋の空き状況をお伝えしている。また、認知症サポーター研修などの実習生の受け入れもやっている。	運営推進会議への出席もあってか、いきいき支援センターとの連携が密になり、空室情報の連絡や認知症サポーター養成講座の開講の話が進んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯目的以外の施錠はしておらず、開かれた環境を整えている。身体拘束も行っておらず、勉強会や日々の中で言葉による拘束についても意識して取り組んでいる。玄関の施錠についてはセキュリティの問題もあり、自由と安全について議論の余地あり。	法人幹部、管理者、職員共に身体拘束の無い支援の重要性を理解しており、「ホーム内全面無施錠」の方針で支援にあたっている。言葉による行動制限にも目を向け、「ちょっと待つて」の後の対応を重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、勉強会や日々の中で虐待に当たる行為について意識を持って取り組んでいる。無意識に虐待行為をしていないかも意識し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会は行ったものの、成年後見制度などの現場において直接的に関係しない事柄に対しては理解不足がある。ここで理解に努めている職員はいるものの、全体としては不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にホームの方針を伝え、納得して頂いた上で契約を結んでいる。日々の不安や疑問点などもケアプランの説明時などに話しを伺い、事業所側からニーズを訊くようにも努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。また、ご家族様にも権利意識を持って頂く事で、事業所側のサービスの質の向上意識を保てるよう努めている。	昨年に続き今回の家族アンケートでも、「職員の離職」が家族から問題視された。家族からは単刀直入の意見が多く、「意見や要望には逃げずに応えてくれる」との信頼感の表れである。	ホーム運営の核となる職員の異動はさほどなく、安定した運営状態が見て取れる。法人内異動や変則勤務によるシフトに関し、正しい情報を伝えることで家族の安心につなげてほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、代表者を含めたミーティングを行い、意見交換を行っているが、勤務体制の関係もあり参加率が低くなっている。その他では個人レベルでの意見交換は行うものの、全体で話し合う機会は持っていない。	ホーム内の勉強会で職員の意識の方向性を統一し、理念に沿った支援の実践につなげている。職員の意識の高さに関しては、家族アンケートでも複数の賞賛の言葉があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じた評価を受けており、管理者を通じても状況を把握している。現場にも足を運び自身でも把握に努めている。環境については現場で働く職員も環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会や外部での研修の案内をしており、勉強する機会は設けているが、全員が参加できる仕組みや、外部の研修については個々の意志に委ねられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度のコンソーシアムにて他グループホームとの交流を図り、勉強会も兼ねておりサービスの質の向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は特に積極的に関わり、お互いのことを知るよう努めている。また、ご家族様にもご協力頂き、少しでも安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約に段階から関係性を作り、利用者様ご本人に対しては“家族”、ご家族様と職員では“親戚”のような関係で共に支援をしていく姿勢をとっている。また毎月の様子を手紙にて報告しており、情報の開示にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自立支援の観点から、出来ない事を支援する姿勢を持ちつつ、積極的に関わりを持ち、ニーズの発見に努めている。必要なサービスがあれば随時提案をし、実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としてお互いが対等であり、人生の大先輩であると言う意識を持って取り組み努めている。お互いに支え合い、父権主義的な関係にならないよう意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	“親戚”のような関係性で共に支え合い、情報を共有する事で、何がご本人にとって良い支援なのかを考えている。また、ご家族様の立場、想いに寄り添えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の了承のもと、ご友人の方もご家族様同様に足を運んで頂けるようにしている。また、馴染みのスーパーに買い物に出掛けたり、話題提供をし、精神的なつながりにも意識をしている。	利用者は、地域のコミュニティセンターで開催される「いどばた会議」の開催を楽しみにしている。毎月の開催を続け、開催回数は100回を数えており、会議の場がお馴染みさんの顔合わせ場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ努めているが、全員とは行かず、職員との関係性が中心となっていることもある。気の合う利用者様同士は一緒に入浴されたり、愚痴を話し合ったり気遣いをされるなど、良い関係を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援が出来る体制を整えており、実践もしている。必要に応じての対応が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様中心のケアを実践すべく、本人本位を心掛けている。声に出して訴えられる方のみでなく、声に出来なかったり、隠れたニーズにも意識している。	利用者の思いを介護計画に反映させるため、2年間継続して目標達成計画に取り上げて取り組んだ。「意向を表出できない利用者の意向をくみ取することは難しい」と、達成度は60%の自己査定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握には努めているが、独居の方やご家族様からも過去の情報が得られないこともある。日常の関わりの中でその方の趣味嗜好などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を活かせるよう、その方の心身機能の把握に努めている。どうしたいのか、なかなか訴えられないことが多いため、積極的な関わりを意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しだけでなく、状態が変われば随時プランの見直しをしている。ご本人が訴えられないことが多く、どうしても家族からの目線が強くて出ている。	理念にある「人間らしさ(その人らしさ)」の感じられる介護計画の作成を目指しており、徐々に利用者の思いや意向が反映されたプランが増えてきた。	他のグループホームも交えた勉強会では、「介護計画の必要性」について熱い議論が交わされている。支援の根幹に係わる事項であり、継続的な討議を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護記録、スタッフノートを活用し、情報の共有に努めている。口頭の申し送りだと聞く職員に偏りも出てしまうため、スタッフノートで全体への周知を図っている。計画作成者も率先して情報収集に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなサービスの展開で、外部との関わりを増やしたり、受けられるサービスの選択肢を増やせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりは薄いものとなっているが、回覧板や運営推進会議より得た情報をもとに、地域での行事に参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に応じて対応している。また、必要に応じてご家族様と連携を図り受診するなど、利用者様の健康管理に努めている。	協力医が2週間に1回、歯科医が毎週1回、ホームに往診している。2名の利用者はこれまでのかかりつけ医を継続して利用しており、受診時には情報提供票を家族等に託して情報を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外傷や異変の早期発見に努め、看護職への報告も随時行っている。状況によっては電話での指示も仰ぎ、臨機応変な対応をしている。必要時には早急に受診も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成している。また、退院できる状況であれば早期に帰って来られる様に受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で終末期に対するホームの指針やご家族様の意向について話し合っており、重度化した際などは特に連絡を取り合い支援している。職員も家族同様の関わりを最後までさせて頂いている。	ほぼ全員の利用者について、ホームでの見取りを希望しており、条件が合えばホームもその希望に応える準備がある。家族の意向の変化に配慮し、こまめに意向の聞き取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるものの、定期的な訓練や勉強会は出来ていない。1日を通して緊急時の対応ができる職員配置をし、リスクマネジメントにも努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する訓練は概ね2か月に1度のペースで行っているが、その他の災害については行えていない。また地域との連携も行えていない。	2ヶ月に1度の防災訓練と、職員、利用者の防災意識を高めるために、消火器による消火訓練を実施することを、目標達成計画に取り上げた。ホームと法人事務所で、災害時の食料と飲料水の備蓄を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として関わり、権利擁護、人権の尊重などの勉強会も行っているが、経験値や能力によって、知らず知らずに権利侵害をしてしまっていることもあるため、職員間での厳しい目が必要である。	利用者の人格を尊重し、丁寧な態度で接している。男性職員の優しい言葉掛けに、語気の荒かった利用者の口調が穏やかに変わった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望には出来るだけ沿うようにしているが、なかなか訴えがないため、声の掛け方に工夫をし、感情の表出を図っている。自己決定については本人本位の観点からも意識して取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	難しいこともあるが、その日が無理なら次の日にと希望を叶えられるようにしている。職員間の情報の共有を図り個別支援も意識して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容出来ない方は介助し、また希望がある方などへはお化粧品なども勧め、いつまでも女性らしく(差別?)居て頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には積極的に調理を行って頂き、買い物にも同行して頂いている。食事の好みもあるため、別メニューも対応出来るように支援している。	献立の基本は2つのユニットが同じであるが、担当する職員の裁量でアレンジしている。利用者も力量に応じた調理参加や手伝いがあり、それぞれの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を毎日チェックし、好みの飲物なども伺いつつ提供している。健康管理も留意しているが、どちらかと言えばお好きな物を優先して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否や習慣もあるため、毎食後・全員にとはいかないが、義歯の洗浄も含め、口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへ座れる方には座って頂き、トイレでの排泄を心掛けている。オムツ類の使用も減らせるようにトイレチェックを行い、職員間での情報の共有も行っている。	トイレでの排泄を基本としており、安易なオムツ使用を減らすように取り組んでいる。トイレが間に合わずに失禁に至ることもあるが、利用者のプライドを傷つけないよう、細心の配慮を持って対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に薬に頼らず、水分摂取や乳製品など召し上がって頂き、自然排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制を整えており、ご本人の希望に沿った時間帯に入って頂けるようにしている。なかなか入られない方へも声掛けを工夫し、日にちが開く事の内容、清潔保持の観点からも努めている。また気の合う方同士では一緒に入浴されることもある。	希望すれば毎日の入浴が可能であり、入浴を好まない利用者以外は、ほとんどの利用者が毎日入浴している。ともすれば職員都合に陥りやすい支援であるが、利用者の意向を最大限聞き入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて昼寝をして頂いたり、天気良ければ日光浴などもして頂いている。夜間もお好きな時間までリビングで過ごして頂き、テレビを観るなど眠くなるまで自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を知る機会を増やすために、その日服用して頂く内服薬に効能を記載し、目に付くようにしている。また、薬剤師とも連携を図り、副作用なども留意して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴が不明の方が多いため、関わりの中で趣味嗜好を探り、メリハリのある生活支援を心掛けている。季節感を味わって頂けるように花を見に行くなどの外出支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩に出掛け、買い物は基本的に毎日行くため、希望されない方へも働きかけ外出を促している。地域の方との連携は出来ていないが、ご家族様とは協力している。	天候や職員の配置状況を考慮して、柔軟な外出支援を行っている。日常的には、職員と連れ立って散歩に出かけており、毎月開催の「いどばた会議」に参加するために地域のコミュニティセンターへ足を運ぶ利用者が6~7名いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はご家族の了承のもとご自身で管理して頂いている。お金を持つ事の大切さは不明だが、買い物時にはご自身で支払えるように取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば出来るようにしている。個人で携帯電話を持っている方もみえる。日々の様子は毎月職員が書いた手紙を送付し、近況報告を兼ねコミュニケーションを図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭いには気を付けており、清潔感のある空間を心掛けている。当日の食事内容を貼る壁紙は季節に合わせた柄を使用し、冬季には暖炉を使用し、暖かみのある環境を提供している。	各ユニットの入り口には、当日勤務する職員の顔写真が貼られたボードがある。訪れる家族にとっては、支援する職員の役割や名前が確認でき、大きな安心感につながっている。共有空間のホールは常に清潔が保たれ、気になる臭いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に和室を利用して頂いたり、テレビ前にソファを配置し、気の合う方同士ではよく話している姿を見かける。窓際にも椅子を用意し、のんびりと過ごせるように第三の空間も意識している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様にも説明し、お好きなようにして頂いている。また、ホームにて創作したものなども活用したり飾って頂いている。	利用者自らが居室を案内してくれた。詩吟、書道、絵画、編み物等の趣味を持っており、関係する書籍を持ち込み、壁には元気な頃の作品も飾ってあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な環境となっているため、手すりなどが最小限となっているが、その分職員が手すりのように支えられるよう努めている。安全と自由の難しさに苦慮しつつ自立支援を意識して取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400992		
法人名	有限会社 アット		
事業所名	アットホームあいり		
所在地	愛知県名古屋市中区玉池町255番		
自己評価作成日	平成27年 2月 14日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosovoCd=2370400992-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に“利用者様中心のケア”の実践に取り組んでおり、開放的な空間の提供のために防犯目的以外の玄関の施錠はしていない。ご家族様を含め、ご自宅で生活されているのと変わらない環境作りに取り組み、自由に出入りできる空間と支援に努めている。少しでも歩ける方には安易に車椅子をしようせず、見守り、手引きと段階を踏んで自立支援に努めている。買い物にも毎日出掛けられるようにしており、ホームで召し上がる食材選びや、個人での買い物も行けるようにしている。庭には小さな畑(家庭菜園)を作り、育て、管理し、食べるまでの楽しみを持つようにしている。共同生活ではあるものの、ADLに応じて個別支援を行っている。ご家族様とも積極的にコミュニケーションを図っており、なかなか来訪できないご家族様にも月に1度手紙を送らせて頂き、ホームでのご様子をお知らせしている。ご家族様と職員が親戚の様な関係となり、利用者様の支援を共に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は掲げられ、実践に向けて取り組んではいるものの、全職員が共有できているとは言えず、また、地域密着型サービスの実践への意識は薄い。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度のいどばた会や歌声喫茶を開催し、地域の方との交流を図っている。年末にはもちつきを行い、近隣の方へお餅を配ったり、もちつきに参加して頂くこともしている。また、夏祭りや秋祭りなどの地域での行事にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2にもあるが、いどばた会、歌声喫茶を通じて地域の方に認知症の理解、介護予防の勉強会や手作業、歌を歌うなどを行っている。利用者様との関わりが薄い為、もう少し関わりが持てると良い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、消防団長、いきいき支援センター職員、ご家族代表の方々と情報を共有し、現場での出来事や、地域の実情について話し合われている。そこでの意見が現場レベルではあまり活かされていないものの、地域との連携には努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での内容の報告や、月に1度、いきいき支援センターへお部屋の空き状況をお伝えしている。また、認知症サポーター研修などの実習生の受け入れもやっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯目的以外の施錠はしておらず、開かれた環境を整えている。身体拘束も行っておらず、勉強会や日々の中で言葉による拘束についても意識して取り組んでいる。玄関の施錠についてはセキュリティーの問題もあり、自由と安全について議論の余地あり。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、勉強会や日々の中で虐待に当たる行為について意識を持って取り組んでいる。無意識に虐待行為をしていないかも意識し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会は行ったものの、成年後見制度などの現場において直接的に関係しない事柄に対しては理解不足がある。ここで理解に努めている職員はいるものの、全体としては不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にホームの方針を伝え、納得して頂いた上で契約を結んでいる。日々の不安や疑問点などもケアプランの説明時などに話しを伺い、事業所側からニーズを訊くようにも努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。また、ご家族様にも権利意識を持って頂く事で、事業所側のサービスの質の向上意識を保てるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、代表者を含めたミーティングを行い、意見交換を行っているが、勤務体制の関係もあり参加率が低くなっている。その他では個人レベルでの意見交換は行うものの、全体で話し合う機会は持っていない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力に応じた評価を受けており、管理者を通じても状況を把握している。現場にも足を運び自身でも把握に努めている。環境については現場で働く職員も環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会や外部での研修の案内をしており、勉強する機会は設けているが、全員が参加できる仕組みや、外部の研修については個々の意志に委ねられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度のコンソーシアムにて他グループホームとの交流を図り、勉強会も兼ねておりサービスの質の向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は特に積極的に関わり、お互いのことを知るよう努めている。また、ご家族様にもご協力頂き、少しでも安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約に段階から関係性を作り、利用者様ご本人に対しては“家族”、ご家族様と職員では“親戚”のような関係で共に支援をしていく姿勢をとっている。また毎月の様子を手紙にて報告しており、情報の開示にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自立支援の観点から、出来ない事を支援する姿勢を持ちつつ、積極的に関わりを持ち、ニーズの発見に努めている。必要なサービスがあれば随時提案をし、実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としてお互いが対等であり、人生の大先輩であると言う意識を持って取り組み努めている。お互いに支え合い、父権主義的な関係にならないよう意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	“親戚”のような関係性で共に支え合い、情報を共有する事で、何がご本人にとって良い支援なのかを考えている。また、ご家族様の立場、想いに寄り添えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の了承のもと、ご友人の方もご家族様同様に足を運んで頂けるようにしている。また、馴染みのスーパーに買い物に出掛けたり、話題提供をし、精神的なつながりにも意識をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ努めているが、全員とは行かず、職員との関係性が中心となっていることもある。気の合う利用者様同士は一緒に入浴されたり、愚痴を話し合ったり気遣いをされるなど、良い関係を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援が出来る体制を整えており、実践もしている。必要に応じての対応が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様中心のケアを実践すべく、本人本位を心掛けている。声に出して訴えられる方のみでなく、声に出来なかったり、隠れたニーズにも意識している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握には努めているが、独居の方やご家族様からも過去の情報が得られないこともある。日常の関わりの中でその方の趣味嗜好などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を活かせるよう、その方の心身機能の把握に努めている。どうしたいのか、なかなか訴えられないことが多いため、積極的な関わりを意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な見直しだけでなく、状態が変われば随時プランの見直しをしている。ご本人が訴えられないことが多く、どうしても家族からの目線が強く出ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護記録、スタッフノートを活用し、情報の共有に努めている。口頭の申し送りだと聞く職員に偏りも出てしまうため、スタッフノートで全体への周知を図っている。計画作成者も率先して情報収集に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなサービスの展開で、外部との関わりを増やしたり、受けられるサービスの選択肢を増やせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりは薄いものとなっているが、回覧板や運営推進会議より得た情報をもとに、地域での行事に参加できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に応じて対応している。また、必要に応じてご家族様と連携を図り受診するなど、利用者様の健康管理に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外傷や異変の早期発見に努め、看護職への報告も随時行っている。状況によっては電話での指示も仰ぎ、臨機応変な対応をしている。必要時には早急に受診も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成している。また、退院できる状況であれば早期に帰って来られる様に受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で終末期に対するホームの指針やご家族様の意向について話し合っており、重度化した際などは特に連絡を取り合い支援している。職員も家族同様の関わりを最後までさせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるものの、定期的な訓練や勉強会は出来ていない。1日を通して緊急時の対応ができる職員配置をし、リスクマネジメントにも努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する訓練は概ね2か月に1度のペースで行っているが、その他の災害については行えていない。また地域との連携も行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として関わり、権利擁護、人権の尊重などの勉強会も行っているが、経験値や能力によって、知らず知らずに権利侵害をしてしまっていることもあるため、職員間での厳しい目が必要である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望には出来るだけ沿うようにしているが、なかなか訴えがないため、声の掛け方に工夫をし、感情の表出を図っている。自己決定については本人本位の観点からも意識して取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	難しいこともあるが、その日が無理なら次の日にと希望を叶えられるようにしている。職員間の情報の共有を図り個別支援も意識して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容出来ない方は介助し、また希望がある方などへはお化粧品なども勧め、いつまでも女性らしく(差別?)居て頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には積極的に調理を行って頂き、買い物にも同行して頂いている。食事の好みもあるため、別メニューも対応出来るように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を毎日チェックし、好みの飲物なども伺いつつ提供している。健康管理も留意しているが、どちらかと言えばお好きな物を優先して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否や習慣もあるため、毎食後・全員にとはいかないが、義歯の洗浄も含め、口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへ座れる方には座って頂き、トイレでの排泄を心掛けている。オムツ類の使用も減らせるようにトイレチェックを行い、職員間での情報の共有も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に薬に頼らず、水分摂取や乳製品など召し上がって頂き、自然排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制を整えており、ご本人の希望に沿った時間帯に入って頂けるようにしている。なかなか入られない方へも声掛けを工夫し、日にちが開く事の内容、清潔保持の観点からも努めている。また気の合う方同士では一緒に入浴されることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて昼寝をして頂いたり、天気良ければ日光浴などもして頂いている。夜間もお好きな時間までリビングで過ごして頂き、テレビを観るなど眠くなるまで自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を知る機会を増やすために、その日服用して頂く内服薬に効能を記載し、目に付くようにしている。また、薬剤師とも連携を図り、副作用なども留意して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴が不明の方が多いため、関わりの中で趣味嗜好を探り、メリハリのある生活支援を心掛けている。季節感を味わって頂けるように花を見に行くなどの外出支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩に出掛け、買い物は基本的に毎日行くため、希望されない方へも働きかけ外出を促している。地域の方との連携は出来ていないが、ご家族様とは協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はご家族の了承のもとご自身で管理して頂いている。お金を持つ事の大切さは不明だが、買い物時にはご自身で支払えるように取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば出来るようにしている。個人で携帯電話を持っている方もみえる。日々の様子は毎月職員が書いた手紙を送付し、近況報告を兼ねコミュニケーションを図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭いには気を付けており、清潔感のある空間を心掛けている。当日の食事内容を貼る壁紙は季節に合わせた柄を使用し、冬季には暖炉を使用し、暖かみのある環境を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に和室を利用して頂いたり、テレビ前にソファを配置し、気の合う方同士ではよく話している姿を見かける。窓際にも椅子を用意し、のんびりと過ごせるように第三の空間も意識している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様にも説明し、お好きなようにして頂いている。また、ホームにて制作したものなども活用したり飾って頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な環境となっているため、手すりなどが最小限となっているが、その分職員が手すりのように支えられるよう努めている。安全と自由の難しさに苦慮しつつ自立支援を意識して取り組んでいる。		